

調査協力校インタビュー

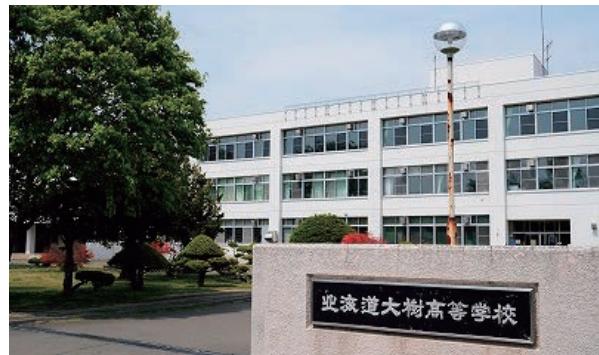
北海道大樹高等学校

校長 高橋豊先生

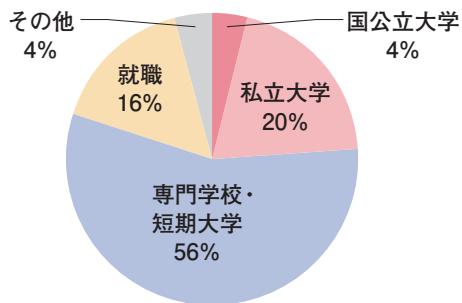
進路指導担当 安達元先生

地元産業への理解を重視する 大樹高校の取り組み

今後力を入れていきたい取り組みは、「個々の進路希望に寄り添った支援」の充実です。2024年度に始まった地域探究科では、学校設定科目「地域デザイン」を通して、まずは地元や地元産業を知ることに重点を置いています。本校は酪農・漁業・林業などの一次産業のほか、地元の大樹町が近年力を入れている最先端の宇宙関連企業の方と話す機会を設け、多様な産業や進路の選択肢があることに気づけるようにしています。本校のような小さな学校は、生徒一人ひとりの進路はさまざまです。だからこそ、学校での学びが将来を考えるきっかけづくりになればと考えています。「総合的な探究の時間」では「キャリアデザイン」をテーマに3年間計画的に探究に取り組み、学びを深めます。学校設定科目「大樹高Plus」では、アドバンスト・ビジネス・ベーシックの3コースに分けて少人数で指導し、個々の進路にあつた学びを提供しています。具体的な取り組みとして、地元の宇宙産業が盛んなことをPRするために、パン製造販売の「満寿屋商店」と連携し、「ロケットパン」を開発・販売した際は、売り上げに大きく貢献しました。また、地域課題の解決に向け、生徒が地元企業や商工会と連携して探究を進めることもあります。2025年度は「夜道の安全性向上したい」「道の駅をもっと活用できないか」など、生徒の素朴な疑問をテーマに設定し、最終的には大樹町高校生議会で提案を行いました。こうした取り組みを通して、単なる学びにとどまらず、地域で活躍できる人材育成につなげていきたいです。さらに、2025年度から生徒募集の一環として「地域みらい留学」を導入し、初年度は札幌と大阪から1名ずつ入学しました。宇宙関連の学びに魅力を感じた生徒もあり、問い合わせも増えてきています。他地域の生徒が加わることは、地元の生徒にとっても刺激となり、地域と学校双方にとって大きな追い風です。とはいえ、近年、少



主な進路先 (令和7年3月卒業生25名)



子化や産業従事者の高齢化が進み、本校でも進学後は都会に出る生徒が多数です。多くの選択肢があることを知ったうえで、「大樹を心の片隅に常に置く」気持ちをはぐくみ、街を盛り上げたいという思いを持つ生徒を増やせるよう探究活動に引き続き力を注いでいきたいです。

高校教育全体を考えたときに、教育課程編成における学校の裁量をより拡大していくことが求められると思います。現状、必履修科目に縛られ、教員も多くの業務に追われています。結果として一番大切な生徒と向き合う時間が限られています。各学校が地域学習やキャリアデザインなどの時間を独自に確保できることで、生徒と向き合う時間を増やし、個性や特色を生かした教育課程の編成が可能になると考えています。